



I.Terashima

THE NIKKAN SPORTS SHO
NAKAYAMA KIMPAI

第73回 日刊スポーツ賞 中山金杯 (GIII)

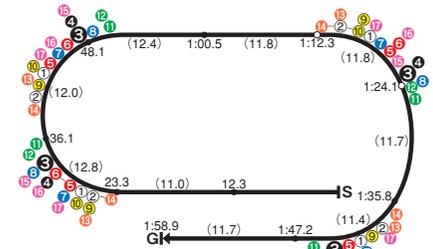
1着 2着 3着 4着 5着
 本賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円
 付加賞 602,000円 172,000円 86,000円



4歳以上、2023.1.5以降2023.12.28まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 ハンデキャップ

2024.1.6 中山 晴・良 芝2000m (国際) (特種)

順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	③	リカンカプール	牡	5	56	津村明秀	1:58.9	3-4-4-4	34.5	494(-12)	7.8⑤	田中克典(栗東)	108
2	⑦	ククナ	牝	6	54	戸崎圭太	1:59.0	9-8-10-10	34.1	468(+6)	15.4③	栗田 徹(美浦)	103
3	⑩	マイネルクリソール	牡	5	55	M.デム-ロ	1:59.1	3-4-6-4	34.6	458(+4)	11.1⑥	中野栄治(美浦)	104
4	⑧	ボンディスウェイ	牡	5	55	木幡巧也	1:59.2	3-3-2-2	34.9	490(±0)	4.8②	牧 光二(美浦)	103
5	⑫	ホウオウアマゾン	牡	6	58	横山武史	1:59.3	2-2-2-2	35.1	512(-4)	113.8⑭	矢作秀人(栗東)	
6	⑥	クリノプレミアム	牝	7	55.5	松岡正海	1:59.4	6-7-7-7	34.7	488(+2)	36.0⑩	伊藤伸一(美浦)	
7	⑩	マテンロウレオ	牡	5	58.5	横山典弘	1:59.5	12-12-13-10	34.0	482(-2)	7.0③	昆 貴(栗東)	
8	⑬	カテラル	牡	8	58.5	荻野 極	1:59.6	14-14-15-16	33.8	488(-4)	184.0⑰	池添 学(栗東)	
9	⑪	ゴールデンハインド	牝	4	54	菅原明良	1:59.7	1-1-1-1	35.4	498(+6)	7.3④	武市康男(美浦)	
10	⑤	マイネルファンロン	牡	9	56	丸山元氣	1:59.8	9-10-7-7	34.8	490(+10)	134.6⑱	手塚貴久(美浦)	
11	④	エビファニー	牡	5	57	R.ビ-ヒュク	1:59.9	6-4-4-4	35.1	506(-6)	4.1①	宮田敬介(美浦)	
12	⑨	サクラトツジュール	牡	7	57	R.キング	1:59.9	14-14-13-13	34.3	526(+22)	16.2⑨	堀 宣行(美浦)	
13	②	アラタ	牡	5	58	横山和生	1:59.9	14-16-15-14	33.9	480(+10)	12.2⑦	和田勇介(美浦)	
14	①	キタウイング	牝	4	53	杉原誠人	1:59.9	12-12-11-10	34.6	434(+2)	69.0⑲	小島茂之(美浦)	
15	⑭	カレンシュトラウス	牡	7	56	藤懸憲志	1:59.9	17-17-17-16	33.6	520(-2)	144.1⑳	平田 修(栗東)	
16	⑮	サトノエルドール	牡	8	56	三浦皇成	1:59.9	6-8-7-7	35.2	482(+10)	100.2⑳	国枝 栄(美浦)	
17	⑰	エミュー	牝	4	54	佐々木大輔	1:59.9	9-10-11-14	37.6	422(-4)	61.2⑳	和田正一郎(美浦)	



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
 36.1 - 48.1 - 1:00.5 46.6 - 34.8

アラカルト

- ・津村明秀騎手は中山金杯初勝利。JRA重賞は通算16勝目
- ・田中克典調教師は21年の厩舎開業以来JRA重賞初勝利
- ・シルバーステート産駒はJRA重賞通算4勝目
- ・5歳馬の勝利は21年ヒシグアスに続く通算24回目
- ・エミューは競走中に疾病(鼻出血)を発症
- ・非抽選馬 6頭(エリカヴィータ、クロミナス、コスタポニータ、サンストックトン、ショウナンマグマ、ナイママ)

単勝③780円(5%) 複勝③270円(3%) ⑦400円(8%) ⑩340円(6%) 枠連②-③570円(1%)
 馬連③-⑦4,820円(24%) ワイド③-⑦1,450円(22%) ③-⑩1,310円(18%) ⑦-⑩1,870円(27%)
 馬単③-⑦8,030円(38%) 3連複③-⑦-⑩12,230円(52%) 3連単③-⑦-⑩65,470円(252%)
 5重勝③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ 対象競走 : 中山9R / 京都10R / 中山10R / 京都11R / 中山11R

リカンカブール *Licancabur*

牡 黒鹿毛 2019.4.16生
北海道浦河町 辻牧場生産
馬主・榎ラ・メール 栗東・田中克典厩舎
馬名意味・チリとポリビアの国境にある山の名前

アンブラッセモワFR系 F4→

シルバーステート 青鹿毛 2013	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	シルヴァースカヤUSA 黒鹿毛 2001	Silver Hawk Boubaskaia
アンブラッセモワFR Embrasser Moi 鹿毛 2013	Zoffany 鹿毛 2008	Dansili Tyranny
	Ice Flower 栗毛 2006	Pivotal
		Ejlaal

5代までのインブリード：Hail to Reason S5×S5 Nijinsky S5×M5

INTERVIEW

辻助 マネージャー (辻牧場)

今後も楽しみにしています

能力はある馬ですし、状態も良いと聞いていたので期待はしていました。馬の状態に合わせてじっくりと待ってくださったオーナーをはじめ、この馬に関わった皆様のご理解があってこそこの勝利だと感謝しています。牧場時代は馬格にも恵まれ、元気で順調に成長していきました。5歳で10戦。まだまだ成長の余地がありそうなので、今後も楽しみにしています。

S.Suzuki



シルバーステートの初年度産駒にあたる本馬は3歳時、未勝利戦を勝ち上がった直後の京都新聞杯で4着に好走、秋の神戸新聞杯でも6着に逃げ粘った。2、3勝クラス特別を連勝して挑んだ昨年暮れのチャレンジCではスタート直後に躓いて流れに乗れず、7着に敗れたが、仕切り直しの一戦で本領を發揮。開業4年目の田中克典調教師ともども、嬉しい重賞初制覇を果たした。

父シルバーステート

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央5戦4勝(垂水S、オーストラリアトロフィー、紫菊賞)、18年から供用
〔代表産駒〕**エイヤン**(ニュージーランドトロフィー^{G_{III}})、**ウォーターナビレラ**(ファンタジーS^{G_{III}}、桜花賞^{G_I}2着、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G_I}3着)、**リカンカブール**(本馬)、**セイウンハーデス**(七夕賞^{G_{III}})、**ショウナンバシット**(若葉S・L)、**セクション**(京都金杯^{G_{III}}2着、アーリントンC^{G_{III}}2着)、**コムストックロード**(葵S^{G_{III}}2着)、**カルロヴェローチェ**(ファルコンS^{G_{III}}2着)、**ベルウッドブラボー**(ジュニアC・L2着)、**ナイトキャッスル**(萩S・L2着)、**ラスハンメル**(若葉S・L2着)、**メタルスピード**(スプリングS^{G_{III}}3着)、**シルヴァーデューク**(サウジアラビアロイヤルC^{G_{III}}3着)、**ロン**(野路菊S^{OP})

母アンブラッセモワFR

中央2戦0勝。14年輸入
(18 牝父ドゥラメンテ)

リカンカブール 本馬(19 牝父シルバーステート)中央10戦5勝(中山金杯^{G_{III}}、西宮S、館山特別、足立山特別)獲得総賞金108,490,000円
| スウィーヴェモワ(20 牝父ルーラーシップ)中央6戦1勝 ㊦
| マダムリエート(21 牝父スワーヴリチャード)中央1戦0勝 ㊦
(22 牝父エピカリス)
(23 牝父シルバーステート)

祖母アイスフラワー Ice Flower

イギリス産 仏3勝
アンブラッセモワ(13 前出)

曾祖母エジラールIRE

仏1勝。01年輸入、02年輸出
| ジラードール(02 牝父Silver Hawk)持込 中央1勝
| ダークドーンGB(03 牝父サンデーサイレンスUSA)地方13勝
ドウレイミー Doe Ray Me(04 牝父Singspiel)仏2勝(フィユドレール賞^{G₃}2着、トゥーレル賞L2着)
| アイスフラワー Ice Flower(06 前出)

四代母ジェノヴェファ Genovefa

アメリカ産 仏2勝(ロワイヨモン賞・仏^{G₃}、マルレ賞^{G₂}3着、ロワイヤリュール賞^{G₂}3着)、**マムール** Mamool(オイロパ賞・独^{G_I}、バーデン大賞・独^{G_I})の母、**アヴィナス** Avienus(WHストックスS・豪^{G₂}、コールフィールドS・豪^{G_I}2着)、**シャクトラ**(阪神大賞典^{G_{II}}、アメリカJCC^{G_{II}}、日経賞^{G_{II}})の祖母

4度目の挑戦で重賞ウイナーの仲間入り

関東ブロックの開幕を飾る中山金杯も、西の京都金杯と同様に5歳馬たちが中心勢力を形成。2走前のケフェウスSでオープン初勝利をマーク、前走のチャレンジCでも小差の4着に食い込んだエピファニーと、昇級初戦ながら同舞台の重賞で好走(ホープフルS5着、弥生賞ディープインパクト記念3着)した実績を持つポーンデイスウエイが人気を分け、2年前のきさらぎ賞の覇者マテンロウレオが2頭に続いた。もっとも、勝利の女神が微笑んだのはそんな3頭とは別の5歳馬。5番人気のリカンカブールが4度目の重賞挑戦で初の勲章を挿んだ。

昨年のフローラSを逃げ切ったゴードン

ルデンハインドが、オークス(1着)以来の休み明けとなったこの日も先手を主張。ホウオウアマゾン、ポーンデイスウエイがこれに続き、リカンカブールの津村明秀騎手は4番手のインに腰を落ち着ける。序盤から力みが目立ったエピファニーは折り合いに苦労しながらその外を迫走。1コーナーで玉突き状に馬群がゴチャつき、手綱を引く場面があったマテンロウレオは後方で未脚勝負に構えた。

逃げたゴードンハインドにホウオウアマゾンがブレッシヤールをかけ、レースは向正面半ばからペースアップ、4コーナーではポーンデイスウエイも前の2頭に並びかけて火花を散らす。対して内々で脚を溜めて連んだ津村騎手は、4コーナーの出口で前の3頭の外へ持ち出してスパート。手心を通りに鋭い決め手を発揮したりリカンカブールが坂を駆け上がった先頭に立ち、中団から追い込んだククナの強襲を抑えてゴールに飛び込んだ。